松村乳業

フローズン一本足打法脱却 幅広く地元のニーズに対応

▲松村武社長

商社系卸をなどを中心に、流通市場は大手に席巻されつつあるように見えるが、地元のニーズに対応しながら成長を続ける地域卸も少なくない。顧客を持ちながら廃業をせざるを得ない製造業のあとを引き継いだり、市場拡大が進む医療介護施設への納入など、地域で一定の物流規模を持って生き残った卸には、人手不足や後継者難を背景に、仕事を頼まれる、持ち込まれるという環境になってきた。

群馬県高崎市に本社を置く松村乳業もそうした企業の一つ。コロナ禍というメーカー以上に厳しい逆境下にも関わらず、前2月期は5%増、松村乳業グループ全体で420億円の売上高で着地した。アイスクリーム卸が事業の出発点。その後冷食も扱い総合フローズンネットワークを構築し、現在は自社所有の冷凍車104台に用車60台で、高崎を中心に仙台、富山、岡山まで拠点を拡大している。

▲本社社屋外観

パンや米飯の製造会社を学校給食中心に運営したり、オリジナルやこだわりに特化したギフト食品、集合住宅や店舗、ビルなどの賃貸事業など多角的に事業を展開している。〝フローズン一本足打法〟ではないため、採算を度外視しての帳合獲得戦とは無縁。

今後、成長の期待が高い事業として、健康医療食品事業や食品加工事業を挙げる。健康系は、医療介護施設に介護食や流動食、メディカル食品やサプリメントなどを納入。特に噛む力、飲み込む力が弱まった高齢者に、安心・安全な食事をサポートしている。介護系に強い大手業務用卸も存在するが、フローズンで培ってきたフルオペの技術を基本にした正確な納品精度には定評がある。

食品加工は、冷凍からチルドへの温度変更や消費期限表示、またバルク単位で搬入されてきた冷凍素材を注文に応じてキット商品へリパックしたり、原産地から輸入された業務用食材も相手先の希望する量に加工して届けている。営業倉庫業の許認可を取得し、営冷に併設した加工施設の展開を拡大していく。現在は本社施設内の1か所だが、来年秋には茨城県に2か所目となる3温度帯に対応した大型倉庫が稼動する。

SDGsに関しては、栃木県藤岡町と邑楽町に太陽光発電所を設けているほか、各センターにパネルを設置し環境負荷の低減、エネルギー自給率の向上に務めている。